

第2回市民ワークショップ 事後アンケート結果

以下、参加者の事後アンケートを取りまとめたもの（順不同）

Q1：このワークショップに参加して、よかったことを一つ教えてください。

- ・ 具体的なアイデアを色んな背景を持った方と考えることができたことはよかったと思う。
- ・ いろんな意見、考え方が聞けて前進した、まわりの人たちにも伝えていきたい。
- ・ あたらしい発想にふれた。
- ・ 「熊本市の街路樹の歴史」に関する講話を聴くことができた。
- ・ たくさんの意見、考え方があ、自分では思わないことがわかった、たぶん、まだまだたくさんある課題が少し見えた。
- ・ 避難所にいたとき、木がある場所はトラブルがないという話を聞いた。木は安心感があるものだと改めて感じる事ができた。
- ・ 冒頭に柴田先生がおっしゃっていた、過去を知らない未来は語れない。という言葉が「熊本市の街路樹の歴史」の講話を聴き凄く胸にささった。これまでの緑化運動になかったいろいろなアイデアが出た。空き地・空き家の利用、教育林業など面白い。
- ・ 街路樹は、切られる事が前提だと言う事がわかった。
- ・ 色々な意見を持つ人とグループセッションをすることができたので良かった。
- ・ 各チームの言いたいことの発表で街路樹が主役の風景になればという所の強調が良かった。
- ・ マネジメントに関する視野が広がった。
- ・ 様々な年代の方と意見交換をすることで、自分が思っていなかった考えを聞いて、楽しんでワークショップができました。
- ・ 世代、職業のちがう人々と意見交換できたこと。
- ・ ビジョン、全体計画の中でいまできることにに対して色々な考え方があると感じました。建築にはサイクルを長い目で見る考え方があり、樹についても色までの歴史を用いて、事例を分析して経験をプランに活かせるのではないかと思いました。
- ・ 「街路樹」を道路の一部として考えるところから、「都市の緑」の一部として考える方向を示せたのは面白かった。
- ・ 街路樹ありきでない緑化のあり方が肯定されたこと。
- ・ 0ベースの森の都がスタートできる。

Q2:あなたは、熊本市の街路樹のある風景は30年後どのようになっていると欲しいですか？

- ・ 場所や環境によって、思い入れがある風景の多様性があるとよいと思う。
- ・ 適材適所に木の特性も活かして植えていこう、街路樹にこだわらなくてもいいと思う。
- ・ あたらしい発想にふれた。
- ・ 樹木の特性をみんなが常識として知ってほしい。
- ・ 小学校とかで授業の中でふれてほしい、その子たちが大人になったらかわる。
- ・ 今の街路樹はいらない。緑地帯や緑地公園をつくる。ポット植の低木や草花にする。
- ・ 市民で育てている緑、みんなで話し合って育てている樹や花になってほしい。
- ・ 向いている場所に向いている木を
 - ・ 低木や草花など市民でも管理がしやすい木を街路樹に
 - ・ 大きな木、よく育った木を公園や空き地に。
公園（“木”をメインとした遊具や遊び場）
- ・ 根の部分を通行できる状態 三層化 地上/地下 空中
- ・ 真の「森の都」として街路樹だけでなく、空き地・空き家を緑化し緑が拡がり行政だけではなく市民が作っていく都になってほしい。
- ・ 本当の意味で、森の都になっていて欲しい。
- ・ どうせ切られるのなら、切る木を植えておく。
- ・ 熊本は水がきれいでも有名になっているように、熊本って樹木がいっぱいあっていいよねと言われるような風景。
- ・ 1年中、緑がある街路樹作りが基本で、一人でも多くの人が街路樹に興味をもつ様子又、関心もてる様な街路樹になれば良いと思います。
- ・ 街路樹が、市民のいこいの場になってほしい。
- ・ 街路樹が価値化され、市民に守られる風景。
- ・ 「街路樹だけは無くさないで！！」という市民が増えて欲しい。
→こうなると、市民は積極的に街路樹に関わりたい！街路樹に興味を持っている状況
→若者に向け情報発信（今の）
- ・ 場所のメリハリをつけていくのが良いと思う。街中の場所によっては、車を入れない道をつくり、街路樹を大きく育てる場所があってもいいと思う。
- ・ 街路樹がのびのびと生きるまち、空間づくりに、市だけでなく市民や企業が関わりやすい環境になってほしい。
- ・ 大きな木のある、幅広の歩道、少ない車。「道路」だけでなく「都市機能」としての「緑」
- ・ 並木としてのそもそもの姿が尊重された姿になっている。空き家空き地相続対策としての緑地活用が展開（更地にして緑地にすると固定資産税が軽減）

Q3：あなたが考える、持続可能な街路樹マネジメント（街路樹育て）の課題はどのようなものですか？

- ・ そもそも街路樹の意義やあるべき姿を共有すること、
- ・ 切る、切らないとか2項対立にもっていき前の概念整理や共有をしておくこと。（結果として、完全に合意がとれなくても）
- ・ 維持管理に予算がかかるので、それも見こして計画して行く。
- ・ コスト、人員そして安全がつづくこと。
- ・ 市民教育。
- ・ 落ち葉ひろい、剪定、利活用。
- ・ 専門家、よく知っている人がいるから寿命だったりその木の特性を考えた上で木を植えたら「ぼすところ」の木はもっと減っていたのではないか？
- ・ 予算 → ビジネス化
- ・ 維持管理、現時点で植わっている樹木。
- ・ できるだけ管理に金と手間がかからない街路樹を選び育てていく。
- ・ 切る木か、切られない木か。
- ・ 倒木の可能性がある木の監理。
- ・ 歩道と車道の仕切り。
- ・ 行政と市民との共有感をもっと重視させる。
- ・ 街路樹の活性化を計る。
- ・ 維持管理のコスト、生活の中で危険が及ぶこと。
- ・ 行政等の決まった人だけでなく、市民など様々な人が、街路樹を気にする。
- ・ 場所によって、樹種を変えることが大事（高低、生育の草遅）
- ・ 街路樹に植えられている本来の姿を私達は知らないのをそれを知る方法やイベントがあると良いなと思いました。どんな木が植えてあるとかはあまり意識していない。
- ・ 「みんな」が関わるシステム作り。「自分ごと」化の工夫が一番ムズかしい。
- ・ 街路樹のオーナーシップが他人任せになりがち。専門性に立ち入らず、法律や計画、歴史に対して疎くなって、無関心になっている。

Q4：あなたがやってみたい、持続可能な街路樹マネジメントは、どんなことですか？

- ・ PDCA を意識したマネジメントが必要だと思う。(時代に合わなくなるのは、どうしようもないと思うので)
 - ・ また、色んな試みを認め合う寛容さ意識醸成
 - ・ どのような議論を経て、どんな意図があって、何にとりくんだのか、またその取組をするための記録を残しておくことは今の立場でできることと思う。
 - ・ 意識向上のイベントなど。
 - ・ 高いところの作業は危険でコスト高になる、低コストで最大の効果、それは樹種の選択とおもいます。
 - ・ 小・中学生からの教育。
 - ・ 街路樹マッピング、そうじ。
 - ・ 切らない木 (シンボルツリー)、この先ずっと残しておく木をつくりたい。自分の地元の木はこれだよ。とかその木をきっかけに思い出としてのこせる。
 - ・ 学校のカリキュラム化、プロジェクト学習の基本テーマに位置づける。
 - ・ 長期的な維持計画に基づいた、街路樹の選定。
 - ・ 街路樹の成長を見守る、あきらめない緑化を進める。
 - ・ 都市林業。
 - ・ 街路樹にはツツジの木があるがアメリカの歩道と車道のようなあまり仕切りのないものにして間にベンチ置くことが重要。 → 日常は素通りするところを、ベンチに座ることで非日常的な風景を見て、樹木の印象を与える。
 - ・ 街路樹に興味をもち、気軽にジョキング、ウォーキング出来る様な環境を作り、その様なマップを作る。街路樹が主役になる為にはどうすれば良いかを、模索し、解決へ導くこと。
 - ・ 街路樹が主役の暮らし (木陰、コンポスト、特異点) を実現することで、価値化され、街路樹中心の道路になる、都市の公園化。
 - ・ 街路樹の間に (道) にベンチを設ける。豊かな街路樹ストリートに！！
 - ・ 街中の交通渋滞する場所は、街路樹を減らし、バス停の引き込みスペースを作ることが必要と思う。(最優先課題)
 - ・ 木や樹木の勉強を体感できるマネジメント
- 教育の場や、スポット的に街路樹を支えられるもの、情報などがあふれる。
それを私達が上手くつかっていくためにプランニングしていく。
- ・ 「記念樹」としての「自分の木」。
 - ・ AI を活用した参加型の管理。手持ちのポイントやマイルを使って緑化支援寄付など。